



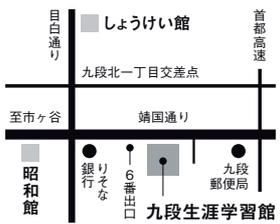
平和祈念展示
資料館
特別展

2024年
2/7(水) - 13(火)

開場時間：9時～17時

九段生涯学習館2階 九段ギャラリー
東京都千代田区九段南 1-5-10

主催：平和祈念展示資料館（総務省委託）
後援：千代田区 協力：昭和館、しょうけい館

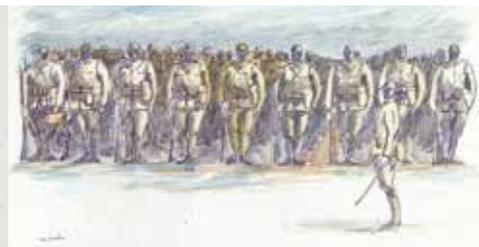


入場無料

会場アクセス
東京メトロ東西線・半蔵門線
都営地下鉄新宿線「九段下駅」6番出口前
※九段生涯学習館には駐車場がありません。
近隣のコインパーキングをご利用いただくか、
公共交通機関でご来場ください。

抑留画家
佐藤清の足跡

シベリア虜囚の 祈り



平和祈念展示
資料館
特別展

シベリア虜囚の

祈り

抑留画家

佐藤清の足跡

1945(昭和20)年8月、ソ連(現・ロシア)は日本に宣戦布告し、満州(現・中国東北部)や朝鮮北部などに侵攻しました。さらに日本の降伏後、日本の軍人・軍属を中心に60万人以上の人びとを自国やモンゴルへと連行・抑留して強制労働を課しました(シベリア抑留)。

本展では、このソ連参戦や抑留の記憶を生涯伝え続けた画家・佐藤清氏(1925〜2014)を取り上げます。

佐藤氏は、1944年に陸軍から召集されて満州に渡り、幹部候補生となって石頭予備士官学校に入校し、そこでソ連軍の侵攻に遭いました。さらに終戦後、ソ連軍によってシベリアのフルムリ地区へ連行・抑留されたのです。1947年末に日本へ帰還すると、数年間の病気療養の後に武蔵野美術学校(現・武蔵野美術大学)で西洋画を学びました。そして建築士として働くかわら、数多くの絵と文で自身の体験を描き残したのです。また、1988年に40人以上の抑留画家たちと新宿で「シベリア抑留画展」を開き、翌年には同展をもとに、日本初の包括的な抑留画集である『シベリア抑留画集 きらめく北斗星の下に』をまとめ上げました。戦後、日本各地で戦争や抑留の体験を伝える活動が生まれましたが、佐藤氏はその中でも特に大きな存在感を発揮しました。

2024(令和6)年は佐藤氏の没後10年に当たります。油彩画やペン画を中心とした自筆の絵画や遺品、『きらめく北斗星の下に』に収録された他の元抑留者の絵画を展示し、その活動の足跡を紹介いたします。



《材木運搬》(『きらめく北斗星の下に』収録)



《自画像》

作品は全て佐藤清氏画



愛用の画材道具と机

昭和館、しょうけい館との連携企画

昭和館

ニュースシアターで関連するニュース映画の上映を行うほか、図書室では関連書籍を紹介いたします。

千代田区九段南 1-6-1
Tel. 03-3222-2577
※2月13日(火)休館

しょうけい館

戦傷病者の証言映像を上映するほか、手記などの関連図書を図書室で紹介いたします。

千代田区九段北 1-11-5
グリーンオーク九段2階
Tel. 03-3234-7821
※2月13日(火)休館

平和祈念展示資料館にて開催中!

抑留者たちの生きる支えとなった
娯楽と文化活動を紹介します。

企画展

極限下のエンターテイメント シベリア抑留者の娯楽と文化活動

期間：1月16日(火)～4月14日(日)
休館：毎週月曜日(月曜が祝日の場合は火曜)
2月4日(日)



沿海州楽劇団で抑留者が
使用したギター

平和祈念展示資料館(総務省委託)

入館無料

東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル33階 Tel: 03-5323-8709 <https://www.heiwakinen.go.jp>

